

ビジネスTODAY 勝ち組ZARA、1200店閉店 ファストファッションにも転機 ネットと店舗の融合急ぐ

2020/6/12付 | 日本経済新聞 朝刊



インディテックスの主力ブランド「ZARA」の店舗=AP

「ZARA」などを展開するアパレル世界最大手インディテックス（スペイン）は10日、全体の16%に当たる最大1200店舗を閉める計画を明らかにした。新型コロナウイルス感染拡大は、アパレルの勝ち組といわれるファストファッションにもビジネスモデルの変革を迫っている。

ZARAや「マッシモ・ドゥッティ」、「ブル・アンド・ベア」などのブランドを対象に、小型店や商圈が重なる不採算店を世界で閉める。2020年4月末時点の店舗数は7412店だった。新規出店を考慮すると最終的に6700～6900店まで減らす見通しだ。日本で閉店するかは明らかにしていない。

拡大路線に逆風

インディテックスが世界で大量閉店を決めたのは、新型コロナで業績不振に陥ったことが引き金だ。

同社が10日発表した20年2～4月期の純損益は4億900万ユーロ（約498億円）の赤字（前年同期は7億3400万ユーロの黒字）に転落した。新型コロナで一時的な店舗閉鎖を余儀なくされたほか、今回の大量閉店に伴う引当金を計上したことも響いた。



アパレルを取り巻く環境は世界的に厳しい。日本ではレナウンが民事再生の手続きに入った。

ファストファッションではH&Mも、売上高が3月だけで前年同月比で46%も落ち込んだ。米ギャップは休業中の店舗の賃料支払いを中止したとして、米モール最大手サイモン・プロパティ・グループから、賃料6590万ドル（約70億円）の支払いを求める訴えを起こされた。

ただしコロナ以前から課題は指摘されていた。インディテックスはこれまで店舗拡大路線で成長してきたが、消費の変化でビジネスモデルが通用しにくくなっていた。